

と、家中の相談の結果、この松林のところに小さな祠を建ててねんごろにお祈りしたただど。

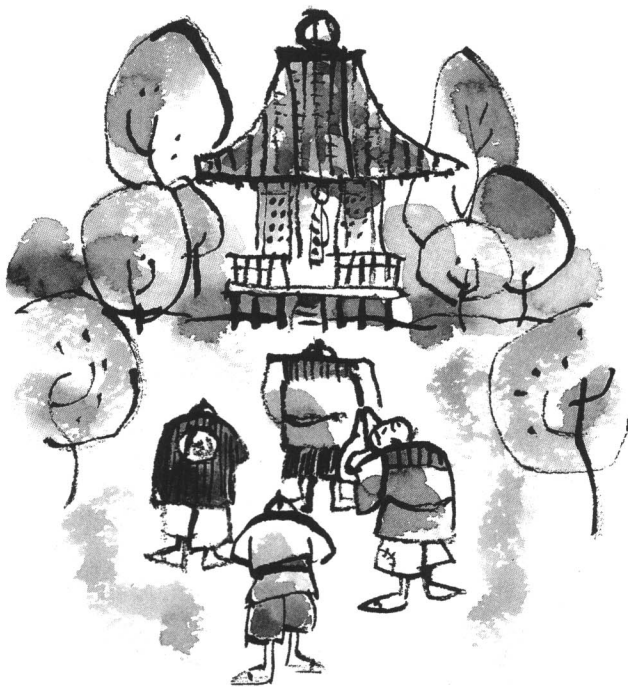
時はうつつてな、この事があつてからどの位歲月が経ったかわがねげんじよ。

今度は、堤防決壊でな、洪水になつてな、二日町から蟹川集落一帯のほとんどの家がな、床のところまで水がきていつぺい被害を受け

ただど。

んだげんじよ、なかつつあま稲荷だけが泥水に流さんにやがったただど。

それ以来、なかつつあま稲荷は、村人から聖地のように思わつち、村人の信仰を集めることになつただど。



注1・・・疑わしい、不審だ。